

2022年5月26日

日本農業労災学会
2022年度（第9回）大会シンポジウムの開催概要（案）

1. 開催日時：2022年10月21日（金）13:00～16:30
2. 会場：ハイブリッド開催
（東京農業大学世田谷キャンパス 横井講堂+Zoomによるオンライン）
3. 主催団体：日本農業労災学会・東京農業大学総研研究会 3 研究部会
（労災対策研究部会・就農者推進教育研究部会・農業協同組合研究部会）
4. 後援団体：JA 全国組織、JA 単協等

5. シンポジウムのテーマ

『農業労災補償制度を拡充し、農作業事故防止に資するためには何が必要かー社労士と JA・行政等関係機関との連携を考えるー』

6. 開催趣旨・ねらい

農業では、農林水産省・農業団体・農機メーカー・研究機関・社労士等を中心に様々な形で農作業事故防止・労災補償対策に取り組んでいるが、農作業事故死や怪我が高止まりしており、就業者 10 万人当たり死亡事故者数は増加し、建設業比較しても 3 倍にも達するまさに「農業者の命の非常事態」という厳しい現実にある。

農作業事故防止・労災補償対策を進めるためには、①農作業事故を未然に防止するための事前対策が重要であるが、それと同時に、②農作業事故がもし起こってしまった場合にはそれにどのように対応して労災補償を行うのかという事後対策も不可欠である。本シンポジウムは主に後者を中心テーマとするものである。

こうした農業事故に対する事後対策、農業労災補償を進めるためには農業者の農業労災への特別加入が求められているにも関わらず、その加入率は極めて低い水準にとどまっている。これには大きくその制度的な問題と、農業者への加入を推進する JA 等現場レベルでの組織体制整備などの問題が指摘されている。本シンポジウムでは、こうした今日の緊急課題を取り上げ、そうした課題に取り組んでおられる、研究者・行政・農業団体・社労士の皆さんからの報告をもとに、日本の農業労災制度やその拡充・加入促進に向けた対策を議論するものである。特に、今回は社労士の取り組みの現状を踏まえて、JA や行政等関係機関との連携のあり方を議論したいと考える。

7. プログラム

- | | | |
|---------|---------------|-------------|
| 1) 開会 | | 13:00 |
| 2) 開会挨拶 | 学会長及び東京農業大学学長 | 13:00～13:10 |
| 3) 座長解題 | | 13:10～13:20 |
- 瀬川徳子（社会保険労務士法人たんぽぽ会）、白石正彦（東京農業大学名誉教授）

4) 基調報告（報告 15 分、質疑 5 分、交代・予備 2 分）

- 第 1 報告 13:20～13:40
特別加入制度における一人親方制度の拡充と農業労災の対応・・・田中建一（東洋大
学講師）
- 第 2 報告 13:42～14:02
労災事故・労災制度の現状と農業労災制度の位置づけ・・・農林水産省農産局技術普
及課安全指導班
- 第 3 報告 14:04～14:24
建設業の労災補償対策における社労士の役割と課題・・・矢島友幸（矢島社会保険労
務士事務所所長）

<休憩 1> 14:24～14:35

- 第 4 報告 14:35～14:55
農業労災防止への「社労士からの講演（説明）事例」紹介・・・堀内政徳（堀内社会
保険労務士事務所所長）
- 第 5 報告 14:57～15:17
JA 現場における農作業事故防止・労災補償対策への取組・・・桐原 章（JA 鹿児島
中央会 営農サポートセンター 主幹）

5) コメント（各 6 分+交代 1 分） 15:17～15:45

コメンテーター

- ①JA 全国連の立場から・・・佐藤 広大（JA 共済連全国本部 普及部農業・損害保障 推進
室農業法人支援グループ 課長）
- ②JA 単協の立場から・・・JA ふくしま未来
- ③社会保険労務士の立場から・・・中村雅和（いのしし社会保険労務士事務所所長）
- ④芸能従事者の立場から・・・森崎めぐみ（全国芸能従事者労災保険センター・日本芸能従
事者協会理事長）

<休憩 2> 15:45～15:55

- 6) 全体討論（25 分） 15:55～16:20
- 7) 座長総括 16:20～16:25
- 8) 閉会挨拶 16:25～16:30
- 9) 閉会 16:30

※個別研究報告がある場合には、閉会挨拶終了後に実施（16:30～16:55、報告 15 分、質疑
10 分）する。

※第 2 回学会賞表彰式は、16:40（個別研究報告がある場合 17:10）から開会する。

以上